

読み飛ばしのある児童に対する支援

～ 「音読用スリット」の活用 ～

【子どもの様子】(小学校5年生)

- 音読のとき、途中で文章を見失ったり、読み飛ばしをしてしまったりする。
- 一斉音読についていけず、泣いてしまうことがある。

【通常の学級担任の願い】

- 自信をもって音読に取り組めるようになってほしい。
- 安心して授業を受けられるようになってほしい。

通級による指導の取組

1 児童への支援

文章を読みやすくする自分に合った方法を見つけるため、下記四つの方法を実施した。

- ① 前の行を隠す。
- ② 後ろの行を隠す。
- ③ 文章を指でなぞる。
- ④ 「音読用スリット」を使う。

児童は、「音読用スリット」を使うと読みやすいと言った。

「音読用スリット」を活用することで音読に対する苦手意識が減ったため、「音読用スリット」を活用した音読の機会を増やした。



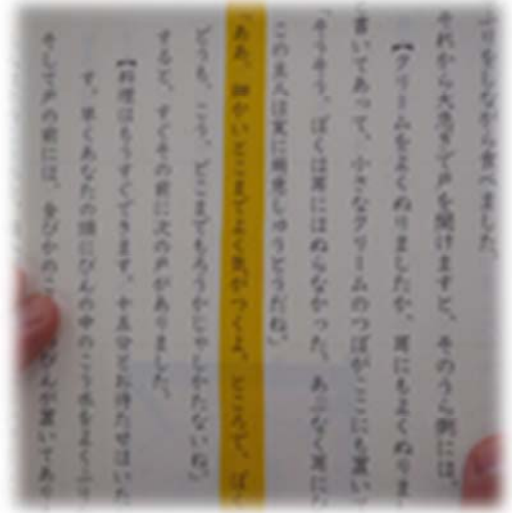
2 支援の成果

「音読用スリット」を活用することによって、読むことに対する抵抗感を軽減することができ、読み飛ばしが少なくなった。

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

通常の学級での授業において、音読するときには、「音読用スリット」を活用した。



2 取組の工夫

- ・ A児が安心して「音読用スリット」を通常の学級で活用することができるように、学級全体にA児がなぜ「音読用スリット」を使うのかということについて伝え、理解を得た。
- ・ 読んでいる行の前後の文章を意識できるように「音読用スリット」を改良した。読む行を黄色で目立つようにし、前後の部分を透明にした「音読用スリット」を作成した。
- ・ 音読に苦手意識をもっている通常の学級の児童にも「音読用スリット」を活用して指導した。2種類の「音読用スリット」（読む行が透明になっているスリットと読む行に色がついているスリット）を用意し、扱いやすい「音読用スリット」を選んで、いつでも活用できるようにした。

成果

- 「音読用スリット」を活用することによって、途中で文章を見失ったり、読み飛ばしをしたりすることがなくなった。
- 安心して「音読用スリット」を通常の学級で活用できるようになった。
- 「音読用スリット」を必要としている児童が他にもいることが分かり、「音読用スリット」を通常の学級の児童への支援として活用することができた。

計算を苦手としている児童に対する視覚的支援

～A児オリジナルの「お助けカード」の活用～

【子どもの様子】(小学校4年生)

- 耳からの情報が入りづらく、全体への指示では理解が難しいことがある。
- 音で覚えようとするため、九九の暗記の定着が難しい。
- 計算の仕方や筆算の仕方など、個別に教えられればできるが時間が経つと忘れてしまうことが多い。

【通常の学級担任の願い】

- 九九や計算の仕方など算数の基礎を定着させ、自信をもって授業に取り組めるようになってほしい。
- 分からない時には、周りの人に聞いたり、参考になる教材を活用したりして解決しようとする力を身につけてほしい。

通級による指導の取組

1 児童への支援

- (1) 耳からの情報が定着しにくいので、動作化と視覚情報を組み合わせた計算の手順(下記①、②)に従って、ワークシートに取り組みさせた。

- ① 計算する数字以外を指で隠す
- ② 声に出して計算する

- (2) A児が、つまずきそうな単元では、A児用に計算の仕方の手順を書いた

「お助けカード」を作成した。「お助けカード」は、通常の学級や家庭でも使えるようにファイリングして持たせた。



2 支援の成果

ワークシートに取り組んでから教科書の問題に取り組むことで、抵抗なく計算問題に取り掛かることができ、自分の力で解くことができてきた。

ワークシートや「お助けカード」を家庭でも使うことで、計算の仕方が定着してきた。

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組



算数の授業で計算の仕方に困ったら、通級による指導担当教員が作成した「お助けカード」を使うようにした。

2 取組の工夫

- ・ A児が四則計算で困っていたら、通常の学級担任が、「お助けカード」を使うように声をかける。
- ・ 自分で「お助けカード」を見て、問題を解くことができたことをほめる。

成果

- 耳からの情報だけでなく、「お助けカード」を使って視覚的に情報を取り入れるようにしたことで、自信をもって計算を解くことができた。
- 通級による指導で使った「お助けカード」を通常の学級や家庭へ持ち帰って活用したことで、通常の学級担任と保護者が子どもの様子について情報を共有することができた。
- 個別懇談会時に、授業中に使用した教具を保護者に紹介し、家庭でも取り組むことで、算数の授業において、自分の力で計算できるようになった。

文章を作ることが苦手な児童への支援

～ 日記指導を通して ～

【子どもの様子】(小学校5年生)

- 文章を読むことが苦手。
- 話をしているうちに言葉が出てこなくなってパニックになり、うまく会話が進まないことが多い。
- 文章を書くと、5W1Hが書かれていないことが多く、相手に伝わらない文章になりやすい。

【通常の学級担任の願い】

- 自分の考えや気持ちを友だちに言葉で伝えられるようになってほしい。
- 自分なりに考えたことを文章に書くことができるようになってほしい。

通級による指導の取組

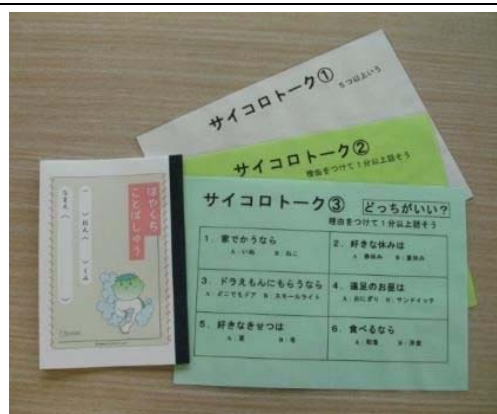
1 児童への支援

- (1) 「早口ことば」や「フリートーク」など、声を出したり、話したりする活動を多く取り入れ、話すことへの抵抗感を少なくするようにした。
- (2) 「サイコロトーク (スピーチ)」を取り入れ、決められたお題について、1分程度話す練習を続けた。
- (3) 「短文作りシート」を利用して、「いつ、どこで、だれが、何を、どうした」(5W1H)を落とさずに書く練習を続けた。

2 支援の成果

「短文作りシート」を活用し、抵抗なく日記を書くことができるようになった。

「サイコロトーク」の活用は、普段の生活の中から、会話のきっかけになる内容を見つけることができた。



【「早口ことば」のテキストと「サイコロトーク」のお題表 (①～③)】

いつ	いつ
どこで	どこで
だれが	だれが
なにを	なにを
どうした	どうした

【短文作りシート】

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

通級による指導での「短文作りシート」を元に、「いつ、どこで、だれが、何を、どうした」を落とさずに書くことができるように、下のようなプリントを使った。

このプリントは、通常の学級で5W1Hを使って文章を書くことが苦手な子どもが必要に応じて自由に使うことができるようにした。

A児は、通級による指導で使っている「短文作りシート」とよく似ているため、使い方の分からない子に説明することができた。

2 取組の工夫

- ・ 日記指導では、「いつ、どこで、だれが、何を、どうした」の部分に朱書きをして意識させる。
- ・ 朝の会のスピーチで、5W1Hが使えている時にはほめる。

いつ	どこ	だれが	何を	どうした

生活日記
月 () 日 () 年
組名 ()
お名前をここに書いてください

【日記用紙】

成果

- 自分の思いを話すことへの抵抗感が少なくなってきた。
- 5W1Hが入った文章を書くことができるようになってきた。
- 授業中に手を挙げ、発言する回数が増えてきた。

文字を書くことが苦手な児童に対する支援

～ 通常の学級担任との連携を生かして ～

【子どもの様子】（小学校6年生）

- マスの中に文字をおさめることが難しい。
- 漢字を覚えることが苦手。

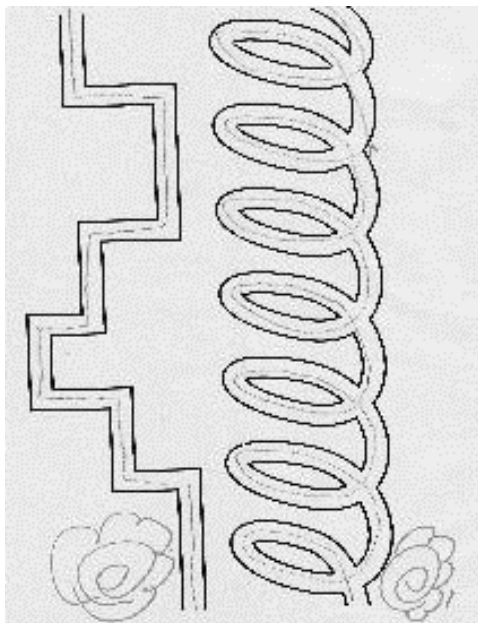
【通常の学級担任の願い】

- マスの大きさに合わせて、文字を丁寧に書くことができるようになってほしい。
- 漢字を覚えるコツをつかんでほしい。

通級による指導の取組

1 児童への支援

- (1) 基本運筆力を身につけることをねらいとして、毎時間「運筆トレーニング」を必ず行った。



【運筆トレーニング】

- (2) 新出漢字を学習する際には、漢字を分解して覚えるように指導した。
例えば、『縮』という漢字は『糸＋宿』でできている」ということである。また児童は、部首を思い出せなくなるが多いため、「月（にくづき）は、体に関係するものにつくよ」と意味を考えるようにした。

2 支援の成果

運筆トレーニングを行ったことにより、文字の形が整い、マスの中に文字がおさまるようになってきた。

児童も「漢字を分解することで覚えやすくなる。」とつぶやき、「立、木、見で親」というように、漢字を分解した言葉を唱えながら書く姿が見られるようになった。

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

児童が「漢字を分解することで覚えやすくなる。」とつぶやいたことから、通常の学級の授業でも新出漢字を学習するときには、漢字を分解して覚える方法を取り入れた。

『盟』はどのように分解すると覚えやすいかな。



日に月に皿で覚えられるよ。明に皿でもいいかな。

2 取組の工夫

- ・ 通級指導教室での指導と一貫した指導を行う。
- ・ 運筆トレーニングや漢字の練習などは、授業後にも行った。
- ・ 教室の背面黒板に漢字コーナーを設置し、漢字を分解したものをパズルのように組み合わせる漢字を覚えられるような環境を整えた。休み時間など、友だちと一緒に漢字クイズにチャレンジする姿がよく見られた。



【漢字コーナー】

成果

- 通級による指導担当教員と学級担任が一貫した指導を行ったことによって、文字がマスの中におさまるようになってきた。また、漢字を覚えることの困り感が減った。
- 文字を丁寧に書こうとする意識が芽生え、ノートの書き方も丁寧になった。

話すことを苦手としている生徒への支援

～ 自信をもって自分の考えを表現する ～

【子どもの様子】(中学校1年生)

- 自分から話すことはほとんどしない。
- 問われたときには多少の受け応えはするが、答えられないと黙ってしまうことが多い。
- 学習にはまじめに取り組むことができ、黙々と問題を解くことができる。
- 仲の良い友だちは何人かいるが、異性とコミュニケーションをとりづらい。

【通常の学級担任の願い】

- 自分の思いを言葉で表現できるようになってほしい。
- 授業中に発言したり、朝のスピーチで話したりできるようになってほしい。

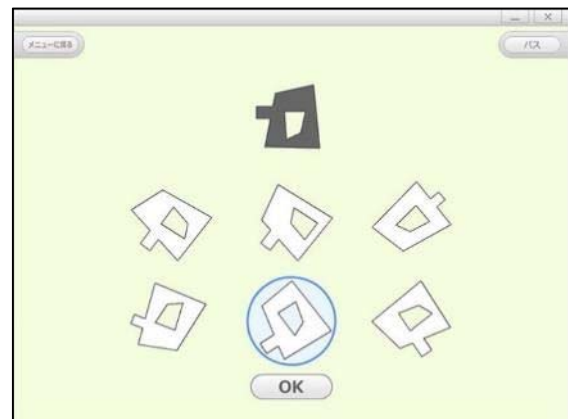
通級による指導の取組

1 生徒への支援

- (1) すぐろく形式になっているコミュニケーションボードゲームを使って、決められたお題について話すゲームを行った。
- (2) 脳機能を訓練するパソコンソフトを使い、集中力や空間認知力等を育成する活動と共に、解答に至った理由を言葉で説明させた。
- (3) 「いつ、だれが、どこで、どうした」というような5W1Hを入れた少し長い文を作り、その後に発表する活動を行った。
- (4) 自分の好きなことや最近楽しかったことなどを30秒間ほどで話す練習を行った。また、授業のはじめに週末のできごとを通級による指導担当教員に話すようにした。

2 支援の成果

様々な方法で話す練習をしたことにより、少しずつではあるが言葉が出てくるようになった。また、質問にも答えられるようになってきた。



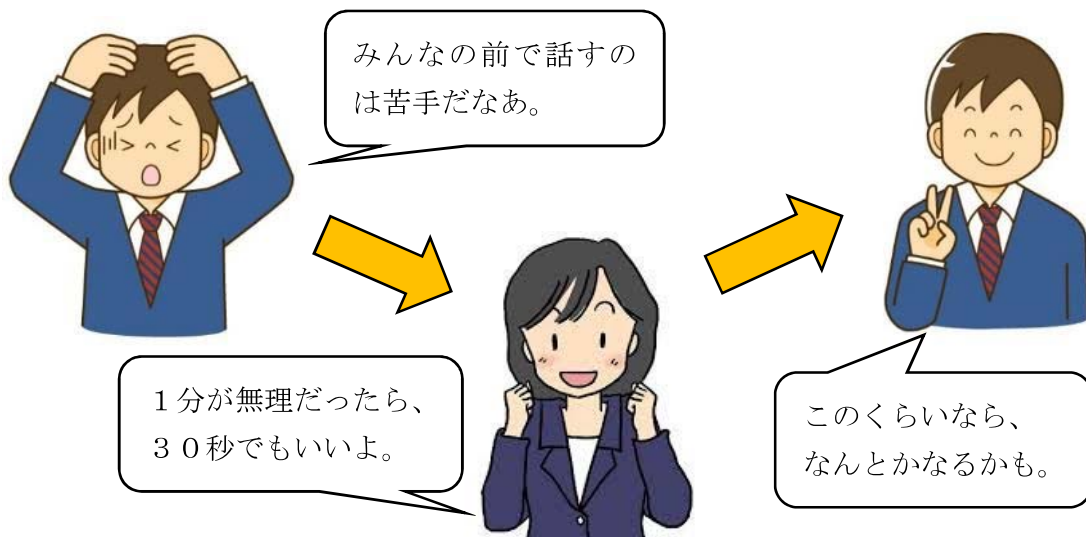
トレーニングメニューの一つ。上部の図形と同じ形のを下の六つから選ぶ。

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

毎日提出する生活ノートに、「この話、先生はもっと知りたいから、後でくわしく教えてね。」という内容の朱書きを入れ、言葉でいろいろと説明させるようにした。

また、朝の会の1分間スピーチにおける持ち時間を30秒ほどに短縮し、短い内容でも認めるようにした。さらに、他の生徒がスピーチの内容について質問したことについて、短くても自分の言葉で説明させるようにした。



2 取組の工夫

- ・ 授業中は、短い言葉で答えられる発問の時にAを指名する。
- ・ 得意意識のある理数系科目の授業では、教師が机間指導をする際に、「どうして、こう思ったの」、「この答えになった理由は言える」などの声かけをし、自分なりの言葉を引き出すようにする。

成果

- 教師の問いかけに対して、以前より明るい表情で答えられるようになった。
- 朝のスピーチでは、話す時間が少しずつ長くなってきた。
- 数学や理科の時間には自ら挙手をして発言することができ、国語や社会の時間にはみんなの前で教科書を読むことに抵抗感が少なくなってきた。

英文を書くことに苦手意識の見られる生徒への支援

～ 子どもの得意分野を伸ばし、自信をもたせる ～

【子どもの様子】(中学校2年生)

- 書くことを苦手としており、ノートに整理して、書くことが難しい。
- アルファベットやローマ字を書くことはできる。
- 忘れ物が多く、宿題の提出も滞りがちになりやすい。
- 普段はおとなしいが、がまんが限界に達すると大きな声を出すことがある。

【通常の学級担任の願い】

- 英文が書けるようになり、英語の授業に積極的に参加してほしい。
- 提出物を期限を守って出す習慣を身につけてほしい。

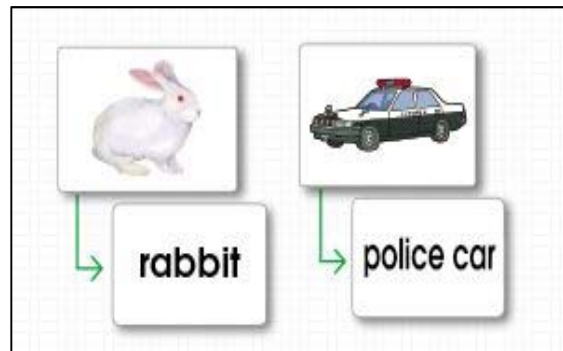
通級による指導の取組

1 生徒への支援

(1) 下記のようなスモールステップで取り組んだ。

- ① 英語の学習補充の初期段階は「読み」と「日本語訳」だけを行い、苦手なことはやらないようにした。
- ② 英単語カード教材を使って、英単語を視覚的にとらえられるようにした。
- ③ to や of など、よく使う前置詞の意味を覚えることを繰り返し行い、文章がかわっても訳すことができる対応力を身につけさせた。
- ④ 3～5文節の短い英文を書く練習を行った。その際に、単語と単語の間で「トン」という言葉をつぶやきながら書かせた。

(2) 定期テスト時の提出課題を確認し、毎回提出状況を確認した。



2 支援の成果

Aの得意な分野の学習を積み重ねることで、英語に対する苦手意識が減り、発言する姿が見られるようになった。

通常の学級での取組

1 通級による指導を生かした取組

自信をもたせるために、Aの得意な「読み」と「日本語訳」の2点にしぼって指名をし、発言をさせた。

Aが単語と単語の間を詰めて書いてしまっている時には、「トン」と通常の学級担任が声をかけたり、ノートに「トン」と朱書きしたりした。



2 取組の工夫

- ・ 通級による指導担当教員と通常の学級担任がAの活動の様子について情報交換し、良かったところを共有して両者がほめる。
- ・ 提出課題の内容や提出日を毎回チェックし、滞っている時には声をかける。

成果

- 英文を読む力が伸び、英語の授業に積極的に取り組むようになった。
- 単語の間にスペースを入れて書くことができるようになってきた。
- 英語だけでなく他教科の提出課題についても期限を意識して提出することができるようになってきた。